



東村山市民テニスクラブ協議会機関紙

発行責任者 柳 利夫

住所 東村山市萩山町5-6-25-301

Tel. 0423-92-8808

編集者 川村 英明



80年代もよりたくましく 共に頑張りましょう

協議会・会長
柳 利夫

新しい年、1980年を迎えるころからご挨拶申し上げます。昨年は春秋のミニ合宿、恒例の楽しい家族ぐるみの夏季合宿、それに春秋の市民大会と市内団体戦(第3回太田杯)、外部講師を招いての3回におよぶ教室開催、さらに11月には姉妹提携している新潟県柏崎市の選手団を迎えての第3回太田杯争奪戦など、極めて多岐にわたる各種行事を成功裡に終えることができました。これら行事の多くは市連盟主催によるものでしたが、その運営面では市民クラブの皆さんの限りないお力添えに負うところ大でした。

改めてお礼申し上げます。

私たちの市民クラブが、1972年5月3日にまず東住クラブとして創立以来、7年半の間に今回入会を受付けた仲間たちを加え400名を超える大世帯になりました。創立当初の1~2年間を体験されている会員の皆さんには、まさしく今昔の感をもたれているものと思います。

それだけに日常のクラブ運営面ではいろいろと難しい事柄も出てきております。

しかし、この間に私たちはクラブの運営面でも大変多くの貴重なことを学びながら現在へと発展してきました。

私たちのクラブメンバーの約半数は親子であったり、夫婦であったり家族会員たちです。もちろんテニスの技術を高め数々の試合に勝っていければ大変に結構なことです。が、ファミリーで楽しくコートで遊ぶことも大変良いことだと思います。1980年代はさらに質を求め頑張りましょう。



今年こそは……

美住クラブ 河野 好明

新年おめでとうございます。

市民テニスクラブに仲間入りして3年、技術的にもそうとう上達してあたりまえなのに予想と希望に反して、いかにせん、練習量が零に近い、何をか言わぬである。しかし試合になると、どんな強い上手な人が相手でも負ける気がしないから不思議、ところが結果はあっさりラフゲーム負け、次回は絶対に勝つぞといつも心に誓う、その繰返しで数年過ぎた。今年は少々心を改め、ラフゲームだけはしない様にしたい。1979年よりも1.4倍練習量を強化する。きっと1.5倍強くなるだろう……?

東村山一市民として、結成以来8年、会員数約330人、誇るべき団体だと思ふ。年々増加して、日本人人口密度の縮図を見る感もしないではないが、この過密を緩和する方法がないこともないと思ふ。例えば各ブロックの週決め、最後の週の全員参加等……。但し平均的に練習量が減少する

ことはやむを得ない。全市民老若男女が大好きなテニスに集まることを考えると多少の犠牲はその比ではないだろう。

初めて硬式テニスを始めた時、硬式はどうしてこんな複雑なカウントの取り方をするのだろうか、とまずとまどい、今もって、そのナゾがわからない。15対0、フィフティーンラブから始まるこのカウント何とかならないだろうか。誰がこの根源教えて下さい。

コートで時々審判なしの試合を見かけるが、これは実にしまりのないスケッチを見ている様である。折角の試合、しかもそこに空きたボールがあると言うのに、これを利用しない手はない。特に初心者、女性の方は積極的すぎる。別に絞首刑台に昇るわけでもないのだから、もっと進んで昇り、自分の試合に活用するのも上達の方法ではないだろうか。又個人差はあるが精神改革にもなる。大声で多少誤審でもかまわぬ、早くコールする。判断力の育成からも特にジュニアクラスには義務づけたいくらいに思う。

今年も一日でも多く、良天気が続き仲間全員が一日でも多くテニスが出来る様、修善寺の山で初日に祈って来ました。

初夢



恩多クラブ 吉永 洋司

新年おめでとうございます。

市民テの一員として初めての新年を迎えますが、7月に入会以来半年という短期間にもかかわらず、皆様の暖いお付合いと御指導により、早々に落し込む事が出来ました。この場をお借りして悪毒共々厚く御礼申し上げます。

テニスを始めて13年になりますが、今迄これといった目標を立てる事もなくただ漫然と楽しんできましたが、「ガット」に新年の抱負を記すようにと声をかけて戴いたのを機に、今年は大奮起して3つの目標を立て、この一年頑張ることにしました。

まず第1に下半身の強化を図る事;一日中座って仕事をすることが多い為、近年特に下半身の衰えを自覚していますのでこの対策として(イ)足腰への負担を軽くすることから、体重を3~4kg減らす。(ロ)自宅の階段を一日15回以上昇り降りする。(ハ)駅までの通勤は早足とする。

第2にサーブの強化;サーブの威力を増す為には腹筋を強化する事は勿論であるが、とくに(イ)ツイストサーブをマスターする、(ロ)セカンドサーブの正確なコントロールをつけること(ダブルフォルトをなくし、コーナーを狙う)。

第3にバックハンドストロークの強化;打球の威力と共にコントロールの正確さを身につける。特にバックからのストレートをライン際にコントロール出来ればと思っております。以上3つの強化目標が確実に達成された来年以降の目標は、全日本選手権、全仏並びに全米オープン、ウィンブルドン……?? どうか初夢の見すぎに加えて屠蘇の酔がまわりすぎたようですので筆を置きます。今年もよろしくお願い致します。



私とテニス<連載>

美住クラブ 本保 俊昭

テニスを始めて4年目、私は、すねがじりの学生です。当初は、テニスに何の興味も経験もなかったのが、いどこに無理に買わされた6500円のテニスラケット、家の中でそのままにしてはかわいそうと、市民テの練習する公園コートへ足を向けたのが4年前の夏です。

「初心者なのでよろしく願います」と私が挨拶すると、「このクラブは上級者だけを必要としているんだ」と、厳しいことば(この時は本当かと思ったのだ)を会長さんに言われ、その上、私のはいているテニスシューズにクレーム(古くて穴があいていたので)をつけられての入部の日でした。

さて、やってみるとなかなか難しく、思ったようには打てません。早速、本屋でローズウォールの本を買い込んで、写真を見ながらフォームのまねをすることから始め、練習は、土玉、日玉、そして水玉のナイターと、フルに参加するようになり、すっかりテニス狂へと変身したのです。ラケットを振り、ボールを追う、取れそうもないボールを拾い、時には、フレームで相手のコートへ、スマッシュの華麗な空振りなど、思いがけないプレー続出のテニス、私が今までやってきたスポーツで一番楽しく、美しいスポーツだと思えます。また、学生生活での人との接触しかない私が、テニスによって、幅広い年齢層の人たちとつき合うことが出来て、とても良かったと思っています。

大学では、時間があれば、先生方や学生たちとテニスをするようになり、なんと、研究室の全員が自分のラケットを持ち、テニスをエンジョイしているのです。テニス仲間が増えることは、うれしいことのひとつとなっています。

最近、コートに出て残念に思うことがあります。それは、小・中学生のジュニアたちから、「おじさん」と言われること(子供たちの目は正しいかも... ショック!)。市民テにどっぷりつかったせいかな? まだそんな年でないんだぞ! ここで、奮起して、今後おじさんなどと呼ばれないためにも、若さのあるテニスをめざしていきたいと思っています。

— 市民テのショートホープ —

広報部
からお願

1月12日《何でも言ってみよう会》 に皆様のご参集を!

広報部では「ガット」2月号を会員の意見・特集号にしたいと考え、上記集会を企画しました。2月の総会を突り多くするうえでも、又市民テを素晴らしく育てるうえでも役立つからです。できるだけ多くの方々のナマの声や日頃の意見をお聞かせいただきたいと思います。積極的なご参加をお願い致します(なお当日出られない方も出席される方に托すか又はメモによりご参加いただければ幸いです)。

日 時: 1月12日(土) 午後5時~7時

ところ: 久米川東住宅 5棟の第3集会室(給水塔わき) 司会進行は広報部が担当します。テーマは市民テに関連するあらゆる事柄にわたることを歓迎します。この集会は、その目的から当然のことですが、「質問と説明」又は「議論」の場ではありません。しかし、自由に意見を言うために必要な限りで議論や質問もあってかまわないと考えます。要はいろいろな意見や創意を反映させることにあります。積極的なご参加を重ねてお願い致します。

今年やってみたいこと

東住クラブ 長井 庸二

皆様、あけましておめでとうございます。「今年こそは、バックハンドをマスターしよう」、「エースのとれるサーブをものにしよう」等々、新しい年を迎えて意気軒昂なことと思います。

新しもの好きな私としては、今年はボルグに代表される今流行のトップスピン打法に挑戦してみようと思っています。意欲的に技術革新に取り組むとか、停滞気味なので刺激を与えろとか言えばカッコイイのか知りませんが、実は人にあれがいいと言われればすっかりその気になる人間がその傾向を遺憾なく発揮したまでなのかも知れません。

ものには流行がありますが、それはどういうものが一番よいかではなく、その時期にどのようなものが多くの人に好まれるかという程度のことだろうと思います。たとえば、背広のエリやネクタイの幅、広いのがはやったり、細いのがはやったりしますが、どちらをしても構わない訳で反対のもので通すのはちょっと勇気がいるだけです。スポーツにも流行があります。市民テにもスキーをやる方がたくさんいるようですが、スキーでもそうです。最近のことはよくわかりませんが、何年前かはオリンピックでオーストリアが勝てば、オーストリア流のやり方がはやり、フランスが勝てばフランス流がはやりオーストリア流のやり方(一部ですが)は悪いクセとして指摘されていたようです。

テニスではどうかというと、日本ではローズウォール流が現在(特にアマ)の主流で、フラット又はスライス系で水平打法がよいとしています。これに対して、ボルグやオースチンがトップスピン打法で大活躍をしているため、今後この打法がかなりはやると思っています。この二つの打法を比較した場合、その差はネクタイの幅の広いか細いか程度のことで、個人差あるいは状況によってそれぞれを使い分ければその長所が生かされるものかも知れません。

そこで、「きっときっと私に向いた打法はトップスピンのものだ! そうだ、そうに違いない!」と自分に言い聞かせて、格段と腕を上げた勇姿を想像しているのですが、今年の賭けは半と出るか、丁と出るか?

新春雑感

青葉クラブ 儀間 進



明けまして おめでとうございます。私達夫婦も市民テにお世話になって早くも2回目の正月を迎えることが出来、いよいよ病膏肓に至っています。入会前、初めてラケットを購入した時「どうせ長続きはしないだろう」という気がふっとよぎり、おもわず一番安いラケットに手が延びたことを思えば、まさに夢のようです。テニスのスポーツそのものとしての楽しさは説明するまでもありませんが、加えて利害関係のない人達がそれぞれの分担で運営されている市民テの楽しさが我々を夢中にさせているものと思います。

我国では欧米諸国に比べ会社、日常生活に於いてもいわゆる「縦社会」中心で営まれているといわれています。又、野球、バレーボール等の他の球技に比べテニスは個人競技そのものです。その為、やゝもするとひとりよがりの自己中心的な人間になりがちです。それらを補う為にも今年も市民テの良さを皆んなで作出し、技術の向上と共に生活をエンジョイしたいと思っています。宜しく御指導御鞭撻の程お願い致します。